



年賀状にはどうして消印がおしてないの

年賀はがきのあつかに、たいへんな人手と時間が

1998年（平成10年）に配られた年賀はがきとして印刷されたのは、42億枚に近い数です。

12月の半ばから1月の半ばまでの、1か月間に寄せられるこの年賀はがきを、郵便局で地方別にわけて、発送するのに、たいへんな人手と時間がかかりました。

そこで、年賀状の「特別取扱規定」をもうけて、おおみそかまでに差し出された年賀はがきのうち、印刷された年賀はがきにかぎっては、消印をおさないで配達することになったのです。

年賀はがきでも、私製のもので切手はあってあるものや、年賀状以外のはがきには、当然、消印がおされます。

年賀はがきの発行枚数は、48年間で23倍に

郵便はがきが発行されたのは、1873年（明治6年）ですが、今のような「お年玉付年賀はがき」、が発行されるようになったのは、1949年（昭和24年）12月からです。郵便料金は2円。1億8000万枚作られました。

お年玉賞品の特等は、当時1万8000円もしたミシンでした。それから49年たった今では、郵便料金は25倍の50円になり、年賀はがきの発行枚数は23倍の約42億枚となったのです。

（監修・保岡 孝之）

